

みんなで考えよう 公共施設の見直しと将来像

持続可能な多摩市の未来に向けた挑戦

ニュータウン開発から40年、
これからも安全に使い続けたいね



ぼくが使って
いる施設は、
どうなるの？

みんなの未来に関わることだから、
施設の将来像を、もう一度みんなで考えていこうよ！



©多摩市

取り組みが始まっている「公共施設の見直し方針と行動プログラム」
(平成 26 ~ 35 年度)について、あらためてご説明します

	ページ
1. 公共施設の更新は大きな課題	2
2. これまでの取り組み 3. 公共施設の見直し「3つの目的」	3
4. 主な公共施設の見直し(案)	4
5. 公共施設の見直し Q&A	6
6. 新しい取り組み	7
7. これからの進め方	8

1. 公共施設の更新は大きな課題

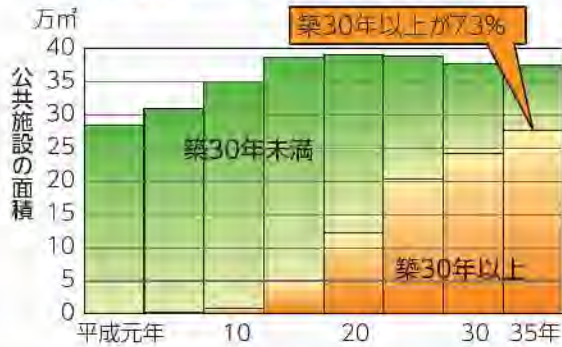
今の施設全部は維持できません



©多摩市

1 公共施設に迫る現実

短期間に作ってきた施設が次々に老朽化し、10年以内に8割が大改修に



道路や橋などのインフラも、公共施設も、他市に比べて質・量ともに高水準。



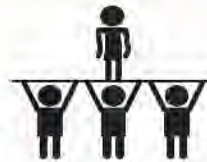
ニュータウン建設時には、国や都の支援があって実現したのですが、一度に来る改修・建替は市が行うこととなります。

2 社会状況の劇的な変化

少子化・高齢化が進むと、社会保障費アップ、税収ダウン



いずれ収支のバランスが保てなくなる



現在

現役世代3人が高齢者1人を支える



約10年後

現役世代2人で高齢者1人を支える

3 財政の厳しい状況

施設を全て維持するには、10年間で845億円必要
(平成25年11月時点)

維持費や改修費が必要



子育て支援・少子化対策も必要



介護や医療費も、ますます必要



用意できるのは、最大でも755億円。差額の90億円が不足する見通しです。

施設の建替などの負担を先送りせず、新たなニーズにも対応するためには、公共施設の見直しは、避けて通れません。

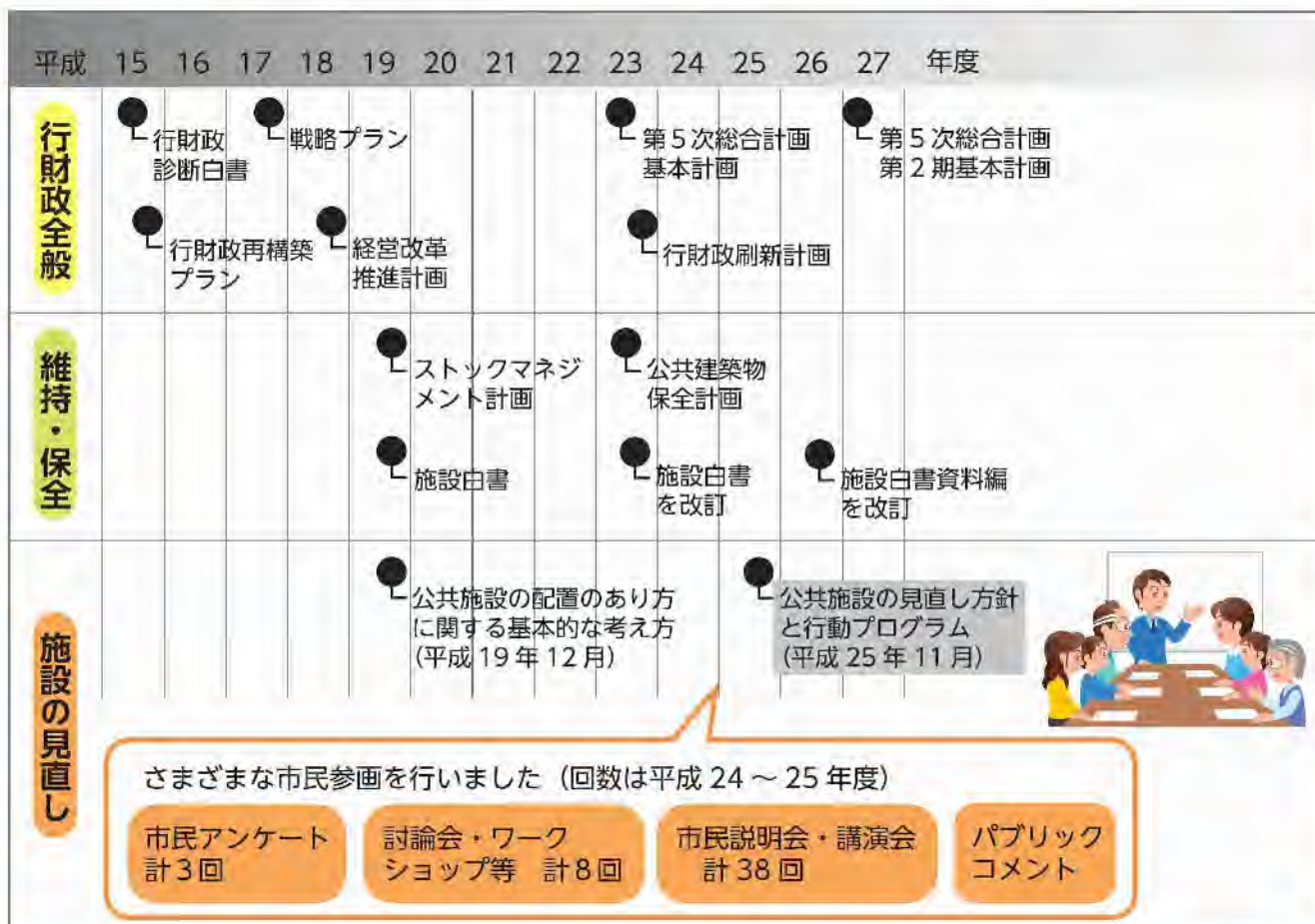
ほくたちの世代には、もっとお金が足りなくなるんだよ!



©多摩市

2. これまでの取り組み

行財政の見直しとあわせ、建物の長寿命化など維持・保全の検討と、公共施設の見直しを並行して行ってきました。



3. 公共施設の見直し「3つの目的」

- 1 安全に使い続ける
- 2 施設全体のダイエット
- 3 時代のニーズに合わせた施設への機能転換



市役所職員 じゃんともTAMA三郎
©多摩市

4. 主な公共施設の見直し(案)

市民の皆さんと一緒に考える場をつくりま

コミュニティ施設

コミュニティセンターを、地域コミュニティの拠点として、最大限活用します。

施設
コミュニティセンター：平成29年度末までに和田・東寺方周辺地域に1館新設し、計9館としていきます。また、三方の森コミュニティ会館も設置しました。

老人福祉館・地区市民ホール：コミュニティセンターの機能の充実にあわせ、一部をコミュニティセンター機能に転換し、再編する検討をしていく考えです。

事業
 地域の拠点として、子育て支援や高齢者の生きがいづくり、介護予防への取り組みなど、地域での見守りや支え合う仕組みづくりを進めます。公民館等との連携を進め、地域課題に取り組む学習や活動の場としても活用していきます。



市庁舎

本庁舎の耐用年数は平成41年度までです。それまでに間に合うよう、今から建替や移転を含めた、将来的な庁舎のあり方を具体的に検討します。

健康センター

将来的な庁舎のあり方を検討していく一定の期間は、今の場所とします。その間、運営が滞らないよう設備等の改修を行う予定です。今後、庁舎のあり方の検討とあわせ、健康センター建物内の施設の更新・移転等を検討します。

公民館

「学び、集い、つながる、作る、探す」をキーワードに、多様な学習活動の場の提供を行うとともに、地域の課題を市民自ら解決していけるよう支援します。

施設
 関戸公民館のあるヴィータ・コミュニエは、より多様な市民ニーズに柔軟に対応できる施設とするため、公民館は2館を統合して、永山公民館1館に集約する考えです。

事業
 市民自らが学んだことを地域で活かせるように、コミュニティセンターや大学・関係機関などと連携し、事業を充実していきます。



パルテノン多摩

文化・芸術の発信拠点、多摩センターのにぎわいを支えるランドマークとして、建物を適切に維持していきます。現在、老朽化した施設の改修及び運営の手法について民間のノウハウの導入が出来ないか検討しています。多摩中央公園の立地を活かし、集客力をさらに高め、まちの活性化へつなげていきます。

図書館

図書館全体のバックヤード機能を担う本館の更新と地域図書館のあり方について、図書館全体の再構築の観点から引き続き検討します。あわせて、市民や利用者等との意見交換や一緒に考える場を設けていきます。



子育て支援施設

一人ひとりの子どもが健やかに成長できるよう、妊娠から18歳までの切れ目のない子育て支援を目指していきます。
児童館
 地域の身近な場所で、子育て中の親子の交流や育児相談、情報提供等を行う地域子育て支援拠点施設として施設数の見直しとともに整備し直します。
学童クラブ
 子どもの安全確保や学校との連携強化のため、順次小学校敷地内への移転新設を進めることを基本とし、待機児童の解消に努めます。また、児童1人につきおおむね1.65㎡以上の育成室を整備します。放課後子ども教室との連携を強めていきます。



※図は、平成27年7月現在の施設配置

※図は、平成27年7月現在の施設配置

5. 公共施設の見直し Q&A

Q 公共施設の見直しは、何のためにやるの？

A 人口減少や急速な高齢化など、多摩市を取り巻く状況は今後、急速かつ、劇的に変化します。将来に負担を先送りすることなく、安心して暮らし続けられるまちをめざし、「量から質へ」の転換が必要です。施設の量は減っても、必要な市民サービスの質を確保し、提供し続けられるよう、施設の再構築を行うことが目的です。すでにこれまでの取り組みにより、学校跡地施設が大学や特別養護老人ホームに生まれ変わっています。



Q いくら足りなくて、施設をどれだけ減らすの？

A 行動プログラムを策定した平成25年には、公共施設にかかる費用の不足分90億円を削減目標としていました。その後、東京オリンピック・パラリンピックを平成32年にひかえ、工事費の高騰などによって不足額が増える見通しです。平成28年度の行動プログラム更新時に不足額を試算し直し、目標額を修正し、あわせて低・未利用施設の有効活用などによる収入確保を検討します。

Q 公共施設の見直しは、今どうなっているの？

A 現在、公共施設の見直しは、行動プログラムをもとに、平成26年度から取り組みをはじめています。行動プログラムの詳しい内容や、経過報告を含めたこれまでの取り組みについては、市内各図書館、市公式ホームページでご覧いただけます。個別施設について多くのご意見をいただいている中で、さらに、市民の皆さんと行政と一緒に考えていく場をつくり、もう一度検討していきたいと考えています。

たま広報をご自宅までお届けします！

たま広報は、新聞折り込み、公共施設等での配布の他、新聞購読をしていない場合で、ご希望の市内在住の世帯にポスティングで個別配布しています。

ご希望の場合は、ご連絡ください。市公式ホームページからも申込み可。

問 広報広聴課 ☎042-338-6812



6. 新しい取り組み

市では、安心して暮らし続けられるまちをめざし、公共施設の見直しとあわせて、新しい試みを始めています。その一部をお知らせします。

多摩ニュータウン再生



みどり豊かで良好な住環境が整う多摩ニュータウン。一方で、初期入居から40年以上が経ち、住民の高齢化、インフラ（都市基盤施設）の老朽化が進みつつあります。多摩市では、学識経験者、東京都、都市再生機構などの参画を得て「多摩ニュータウン再生検討会議」を立ち上げ、「住み続けたい」と思える再生後のまちの姿を検討しています。

今後、シンポジウム（平成28年2月開催予定）など、皆様のご意見を聞く機会を設けていきます。

このロゴマークは、多摩ニュータウンの魅力である自然・都市機能の持続性、さらに成長を続ける再活性化を表現しています。

健幸まちづくり（スマートウェルネスシティ）



健康で、生きがいをもって、安心・安全に暮らすことができ、高齢の方でも、子育て中でも、障害があっても、誰もがそれぞれに幸せを実感できるまちをめざす総合的な取り組みです。

公共施設の機能の再編や民間施設などを活用して、子育て支援や健康づくり、高齢者や障がいのある人の地域での自立した暮らしを支える取り組みをいっそう進めます。

「公共施設の見直し方針と行動プログラム」記載事例

公共施設の見直しで実現した取り組み

Jリーグクラブとの協働による学校跡地利用「南豊ヶ丘フィールド」

平成27年4月、南豊ヶ丘小学校跡地に、人工芝グラウンドと校舎を活用したクラブハウスが整備されました。日テレ・ベレーザの練習や、東京ヴェルディによるサッカースクール、一般貸し出し、毎週木曜日の地域への無料開放もしています。また、防災拠点の機能も備えています。



土地と建物は、多摩市が一般社団法人東京グリーンスポーツリンク※に貸し付け、整備はスポーツ振興くじtotoと公益財団法人東京都サッカー協会の助成金を活用。

※東京ヴェルディ1969フットボールクラブ(株)が平成23年に設立した法人



©多摩市



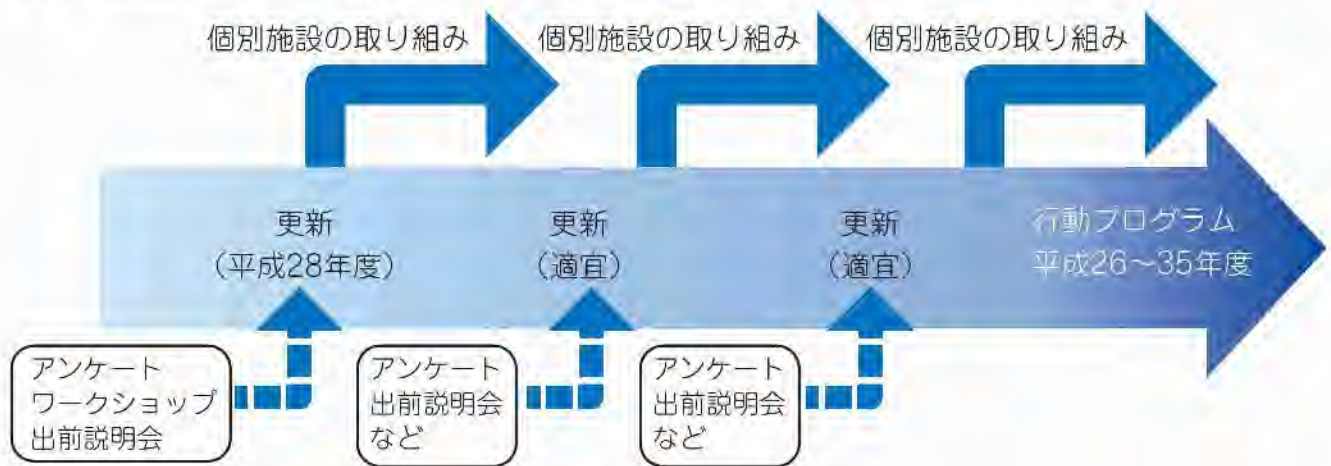
7. これからの進め方

(1) 広くお知らせします

公共施設の見直しを「知らない」方を1人でも減らしていくため、このような情報誌でのお知らせや、説明会などを行っていきます。次回の情報誌 (vol.2) は、平成28年3月発行予定です。

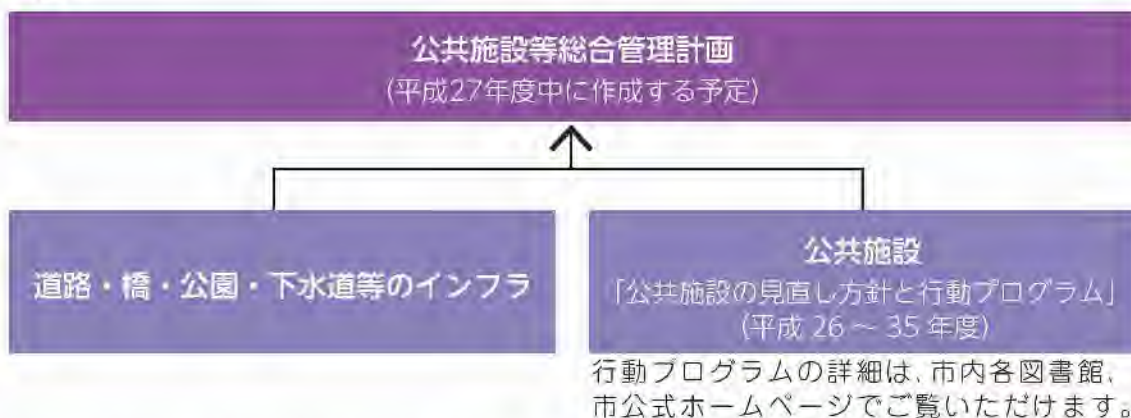
(2) 市民と行政と一緒に考えていく場をつくります

平成25年に作成した行動プログラムは、平成35年度までの期間中、徐々に計画を更新しながら個別施設の取り組みを具体化していくものです。その途中では、アンケートで広くご意見をうかがったり、説明会、ワークショップなどの場づくりをしていきます。



(3) インフラを含めた総合的な計画をつくります

これまで道路・橋等のインフラについては、個別の維持管理計画を立ててきました。平成27年度中に、公共施設とあわせて現状を把握し、将来の見通しを立てるため、総合的な管理計画を作成する予定です。



発行 多摩市 〒206-8666 東京都多摩市関戸6-12-1

編集 企画政策部行政管理課

☎ 042-338-6948 (直通) FAX 042-337-7658

多摩市公共施設見直し

検索